




## 審査結果の要旨

報告番号	乙 第 <b>2830</b> 号	氏名	山口 知彦
審査担当者	主査	矢野 博久	
	副主査	大島 存一	
	副主査	赤木 由人	
主論文題目： <b>Cytological nuclear atypia classification can predict prognosis in patient with endometrial cancer</b> (細胞学的核異型分類は子宮内膜癌患者の予後を予測できる)			

### 審査結果の要旨 (意見)

本研究では、71例の子宮内膜癌症例（低悪性 23例と高悪性 48例）の細胞診標本における核所見の検討により核分裂像と核の大小不同の2因子が悪性度の評価に有用であることを見だし、これら2因子を用いて、独自に3段階の細胞学的異型度分類（核異型 I-III）を確立した。本異型度分類は子宮内膜癌患者の予後と関連し、予後推定に本分類が有用であることも明らかにしている。また、本分類は組織学的悪性度評価とある程度相関するが、より正確な予後予測が可能な症例があることも証明している。本研究は、子宮内膜癌患者の予後予測や治療法の選択などに有用な細胞学的異型度分類を樹立した重要な研究であり、本分類の早期の臨床応用も可能と思われることから、学位論文として極めて価値の高いものであると判断する。

### 論文要旨

核所見が子宮内膜癌患者の予後因子であるかについて検討した。

病理組織と内膜細胞診標本が揃った子宮内膜癌患者 71名を対象とし、病理組織学的に類内膜腺癌 G1 と G2 を type I 癌，類内膜腺癌 G3，漿液性腺癌および明細胞腺癌を type II 癌と分類した。細胞学的核異型分類には核分裂像，明瞭な核小体，核面積および核の大小不同の4つの因子を用いた。

Type I 癌と type II 癌の比較では細胞診標本で核分裂像と核の大小不同の2つの因子に有意差がみられた。この2つの因子を用いて，細胞学的核異型度を3つに分類したところ，核異型 1 が 57.7%，核異型 2 が 19.7%，核異型 3 が 22.5%であり，この細胞学的異型度分類は子宮内膜癌患者の予後と関連がみられた。この分類は type II 癌患者の中から予後の良い患者を，類内膜腺癌 G1 患者の中から予後不良な患者を抽出することができる。

内膜細胞診を用いた細胞学的核異型分類は患者の予後予測をすることができる。細胞学的核異型分類と病理組織学的分類を用いることで，子宮内膜癌患者の治療や経過観察に利用できるかもしれないため，内膜細胞診の報告にも記載すべきである。